

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 不二聖心女子学院中学校・高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒410-1126
静岡県裾野市桃園198

E-mail fuji@fujiseishin-jh.ed.jp

Website http://www.fujiseishin-jh.ed.jp

児童生徒数 男子 0 名 女子 396 名 合計 396 名
 児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

- ① 環境教育 (高校1年生 総合的な学習の時間 年間プログラム)
 - 校内の自然環境を利用した、生物多様性を意識した森づくり活動
 - ・グループ毎に生物多様性を維持することを意識した樹木の選定と植樹
 - 校内の森林保全活動
 - ・矢作川水系森林ボランティア協議会の指導によるヒノキ林の健康診断
 - ・間伐体験 (今年度も予定していたが、雨天のため中止)
 - ・NPO法人土に還る木・森づくりの会の指導による間伐材を利用したベンチ作成
 - 生物多様性と森林保全に関する講義・講演
 - ・林業女子会静岡、三井物産CSR部によるそれぞれの活動と関係する現状についての講演
 - ・本校教員による本校の自然環境における生物多様性、および気候変動と森林の役割、森林保全に対する国連の取り組みについての講義
 - 「温暖化緩和策としての森林保全」を議題とした模擬国連の実施
 - ・クラスを15か国に分け、英文の国連資料などを利用し実施
- ② 国際理解教育 (ホームルーム活動・課外活動など)
 - 姉妹校への留学生の派遣
 - ・昨年度カナダに派遣された生徒2名が6月下旬に帰国、ニュージーランドに派遣された生徒が1月に帰国し復学した。カナダに派遣された生徒は、報告会で体験を全校生徒と共有し、また学校説明会等で自身の体験を英語で発表、学校外の方にも体験を伝えた
 - ・9月からカナダに2名、スコットランドに1名、1月からニュージーランドに1名、それぞれ約1年間派遣
 - コスタリカからの留学生の受け入れ (2015年4月～2016年2月)
 - ・高校1年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活、ホームステイ (本校生徒の家庭がホームステイ先) においても多くの学年の生徒と交流した
 - イタリアからの留学生の受け入れ (2015年9月～2016年7月)
 - ・高校2年生のクラスで受け入れ、行事の際には寄宿舎に宿泊し、多くの生徒と関わりながら学校生活を送っている。
 - アメリカ合衆国の姉妹校からの短期留学生の受け入れ (2015年6月中旬-7月上旬)
 - ・高校3年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活とホームステイでも多くの学年の生徒と交流した。
 - 台湾の姉妹校からの短期留学生の受け入れ (2016年1月末～2月中旬)
 - ・高校1年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活とホームステイでも多くの学年の生徒と交流した。留学生活中、台湾南部地震が発生、学校からの寄付を、留学生を通して行った。

- 海外体験学習の実施（高校生希望者を対象）
 - ・アメリカ合衆国での語学研修プログラム
 - ・姉妹校主催のカンボジア、タイ、台湾での文化交流プログラムへの参加
 - ・参加者は、事前学習を通してそれぞれの文化や歴史を学び、全校生徒への体験報告会や文化祭での展示発表を行って、体験を全校生徒と共有した。
- 総合的な学習の時間の活動などにおける海外の文化体験
 - ・中学2年生が、夏休みに2泊3日の「English Camp」に参加。
 - ・中学2年生が、ユニセフの講演会を受けた。テーマはアフリカの子どもたちの現状で、講演だけでなく、水をいっぱいに入れた水がめを運ぶ体験をするなど、アフリカの子供たちの日常の困難さを味わった。
- 模擬国連への取り組み
 - ・全日本高校模擬国連大会へ参加を目標に、姉妹校での模擬国連大会や首都圏で行われた練習会へ参加
 - ・第9回全日本高校模擬国連大会に、書類選考を通過して本大会へと参加することができた
- ユネスコ主催の気候変動教育に関する国際セミナーへの教員派遣
 - ・2015年12月、COP21の開催に合わせ、フランス・パリのユネスコ本部で、世界のユネスコスクール（11か国55のユネスコスクール）の教員・生徒を集めて、気候変動教育の実践例のシェア、気候変動教育を推進するための冊子への提言を行うための国際セミナーが開かれた。
 - ・本校における気候変動に関する教育の取り組みが評価され、このセミナーへ招待され、教員1名が派遣された
 - ・日本からは6校7名の教員が派遣され、国内外のユネスコスクールの教員・生徒と交流し、気候変動教育の重要性を再確認し、より良い取り組みへとつなげられるよう、話し合いが行われた
- 国際的な視野を広げる
 - ・難民教育基金（RET）の日本支部の方の講演
 - ・上記の講演に合わせ、寄宿生の昼食に、難民の人々の故郷の料理（ミャンマー、クルドの料理）を提供。その後、生徒発案の難民の人々の故郷の料理を実際に調理するイベントが開催された。
- 国際的なチャリティ活動へ参加・協力
 - ・クリスマス行事で行われたチャリティセールで、売り上げを学年毎に決めたNGOや国際機関に寄付した。寄付先について、担当の委員がそれぞれ関わりたい国際問題や、それらに関わるNGOや国際機関の活動を紹介し、学年毎に決定した。チャリティセールではクラス全員が手芸品や焼き菓子を作って売ったり、フェアトレードのコーヒーや紅茶を喫茶コーナーで提供したりした。
 - ・月に1回の「節約弁当」で集まったお金を難民・教育支援を主に活動している機関などに寄付した。「節約弁当」とは、お弁当のおかずをなくして、その分の100円を各自寄付する活動である。寄付先の活動内容や難民の生活状況などについての新聞を発行するなど、難民問題や教育支援の必要性について自発的に調査し、知識の共有を行った。

③ 平和・人権教育

○長崎への研修旅行とそれに関する準備（高校2年生 総合的な学習の時間）

- ・事前学習で長崎への原子爆弾投下や被爆の状況、長崎における基督教の信仰と迫害の歴史など、グループ学習とプレゼンテーションを行い、知識を共有した
- ・現地での研修、被爆体験者の講演、教会での祈りや礼拝を通して、戦争について理解を深め、平和を維持する大切さを学んだ

○女性やマイノリティの人権や現代社会の問題などを学ぶ講演や活動

（高校3年生 総合的な学習の時間）

- ・育児休暇取得や男女同姓の問題についてディベートを実施
- ・ジェンダーやマイノリティの人権について、大学の研究者の講演を聴く

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）